

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番	福山市立川口小学校
最終更新日		2022年(令和4年)10月3日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも、対話し自分の考えを深めることを大切に取り組む姿勢がよく伺えた。 自ら考え、学ぼうとする力を高めていくため、生徒一人一人を大切にしている様子が伺える。 コロナ禍でもできることを積極的に実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの意見を尊重しながら、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒が増えている。 日々の授業や行事等を通して、児童生徒自身が、学び方を考えたり、企画等を考え・実行したりしている。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校・子どもはこうあるべきだ」といった価値観や固定観念を問い直す ・多様な価値観で子ども一人一人の学び姿をみる。 ○自分が“考えて、決める、選ぶ” ・自分で方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりする。

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見解決力(自己決定) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(思いやり) 	
<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の個性を尊重し、だれも取り残さない。 子どもとともに決める 	めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見だし解決に向けて方法をさぐる。 課題や問題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かし合う。 自己の考えや思いについて自信を持ったり認めたり、他者の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。 	
学校教育目標	研究	教科等	国語科, 外国語(外国語活動)
自他を認め(思いやり), 自己決定できる児童の育成	主題内容等		主体的に自分の考えを表出する児童の育成 ~選ぶ・決める授業を通して~ すべての授業で何を問うているのかを見つけ、対話し、その問いに対して自分の考えを表出できるようにする。
現状	めざす授業の姿		「子ども主体の学びづくり」
<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 年を追うごとに児童が落ち着き、「自己決定」し、社会性が身につけてきている。また、文化や身体的状況等さまざまな児童を認め合える風土が出来てきている。 高学年の教科担任制の導入等で組織として児童をみることができ、児童の課題は職員で全体共有してかかわることができている。 授業の中で「認知」を意識した授業展開を試みだしているが、まだ教師主導の場面も多い。 <p><地域・家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育推進に協力的である一方で児童よりも保護者対応に苦慮する場面も多くある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで学びの課題及び手法を選んだり、考えたりする 他者と対話することで考えを深める 課題について考えや思いを<u>しっかり書く</u> 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経 営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
1	自分の考えを表出することができる児童	★	継続	自分で問いや課題を選び、自己表現できる(書く・対話など)の児童の割合を80%以上にする。	①基礎学力の定着を図る学力補充時間(くすのきタイム・チャレンジタイム)の実施 ②問いや課題を見つけ、考えを表出する授業の実施	①学期末テスト45%未満の児童を昨年度より減らす。 ②児童アンケートにおいて「自分の考えを書いたり伝えたりすることができる」と回答する児童の割合を80%以上にする。	①昨年度学期末テスト45%未満の児童数82名に対し、今年度1学期末は52名だった。取り組みとしてチャレンジタイムを5月1回、6月1回、7月1回行った。 ②児童アンケート集計の結果、肯定的に答えた児童は、83%だった。取り組みとして、振り返りに観点を持たせ、自分の学びを再構築するようにした。	3	3	①引き続き基礎学力を図る学力補充(くすのきタイム・チャレンジタイム)を実施し、45%未満の児童の人数を減らす。 ②今後の取り組みとして、「ふりかえりの達人」を提示し、自己表現のよい例を示し、書くことのよさに結び付けていくように実施していく。				
4	自他ともに認め合える児童	★	継続	長期欠席児童(年間の欠席日数が30日以上)及び不登校児童の人数を昨年度より減らす	①自己有用感を育成し、協調性を育てるために、「がんばりみつげ」を行う。	①児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがある。」と回答する割合を90%にする。	①児童アンケート集計の結果、肯定的に答えた児童は93%だった。取り組みとして6月に1回、9月に1回「がんばりみつげ」を行った。	3	3	①がんばりみつげの内容を学年の実態に合わせて変えるようにする。また見る範囲もクラスから学年・学校全体と広げていくように指導していく。				
					②児童の居場所づくり及び「自己決定」の場として「ロングタイム大休憩」を月に4回以上行う。	②児童アンケートにおいて、「学校では安心して過ごすことができる」と回答する児童の割合を85%以上にする。	②児童アンケート集計の結果、肯定的に答えた児童は81%だった。取り組みとして5月から7月、9月にそれぞれ月に4回行った。	3	2	②1学期最後に学級力向上アンケートを行い、その結果の見方と活用の仕方について夏季研修を行った。またクラス会議に関する研修を行い2学期以降全クラスで実施していく。				
3	心身ともに健康にたくましく生きる児童		見直し	健康な体作りに営む児童を80%以上にする。	①残菜を減らしていく。	①昨年度より残菜量を減らす。	①2021年度と2022年度の4月～7月の残菜量を比較し、2021年度は0.19%に対し、2022年度は0.12%であった。2学期から給食の配膳方法を「全員均等に配膳する。」に変更した。今まで苦手な食材を避けていた児童も一人分の栄養量を意識し、少しずつ食べるようになり、アンケート「少しでも食べられるように	4	4	・各クラス、栄養士を中心として、食に関する授業を行ったり、児童の机の上に給食が運ばれるまでに給食技術員がどのようなことを行っているのか見学・動画を視聴したりして、食について考えるような取り組みを行っていく。				

				<p>② 体育の時間で運動量を増やすとともに、子どもが自分で考えた安全な遊びを行う。</p>	<p>② 昨年度よりケガの発生件数を減らす。</p>	<p>給食を頑張っていますか。」では 96.8%の児童が肯定的な回答だった。</p> <p>② 2021 年度と 2022 年度の4月から9月のスポーツ振興センターに係るけがの発生件数を比較し、2021 年度 10 件に対し、2022 年度5件であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動量を増やすための方法・取り組みを考える職員研修を行い、体育の準備時間の長さに問題があった。時間割を編成し、体育館・運動場の使用を学年が連続して行うことで、準備・片付け時間を減少させ、児童の運動量を十分確保することができた。 ・けがの発生件数を減らすために、学校内であいまいになっていた基本的なルール・きまりを今一度確認し、安全委員会と連携し、継続的に全校児童に指導・呼びかけを行った。アンケート「安全に気を付けて遊んでいますか。」に 97.1%の児童が肯定的に答え、安全に遊べるように意識させることができた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・運動について、今後は寒くなり、外で活動する児童が減るため、休憩時間に体育の時間に学習する運動の紹介を行い、上手な体の使い方を教えたり、運動機会を増やしたりする。けがについては、引き続き安全委員会と連携し、安全な遊び方の指導・呼びかけを行っていく。 				
2	<p>教育公務員としての専門性及び規範をもった教職員。</p>	<p>継続</p>	<p>教職員の不祥事を0にし、病休者を0にする。</p>	<p>① 月45時間年間360時間を意識した仕事の内容、量、手法について業務改善に努める。</p>	<p>① 週1回の定時退校の定着を図る。</p> <p>② 時間外勤務の時間を全教職員が月45時間年間、年間360時間未満にする。</p>	<p>① 週1回の定時退校は職員が意識し、効率的な職務を推進しているので定着している。</p> <p>② 時間外 45 時間未満は 100%達成</p>	3	3	<p>今後も業務の精選を図り、児童にプラスになることを優先して実行し、効率化できるものはしっかり取り入れ、児童に向かい合える時間の確保及び、職員の服務管理に努める。</p>				